

□文献紹介□

水疱性類天疱瘡の患者では、熱ショック蛋白質 90 の発現と分泌に異常がみられる

細胞がストレス条件下にさらされた際に発現が高まる熱ショック蛋白質 (Hsp) の 1 つとして知られる Hsp90 は、生体内での炎症反応に関与し、いくつかの自己免疫疾患のマウスモデルではその抑制による治療効果が示されている。

この論文では、代表的な自己免疫性水疱症である水疱性類天疱瘡 (bullous pemphigoid: BP) の患者における Hsp90 の発現量および分泌量について解析が行われた。健常人と比較して、BP 患者の皮膚では Hsp90 の発現が高いものの、血清中では Hsp90 の量は低下しており、抗 BP180 抗体価との逆相関がみられた。また、BP 患者での末梢血単核球内で Hsp90 が高発現していることに加えて、その分泌は限定的に行われることが示された。さらに、ヒト表皮角化細胞株である HaCaT 細胞に BP 患者血清または BP180 蛋白の

NC16A 領域に対する自己抗体を作用させると、HaCaT 細胞内で Hsp90 の高発現が誘導され、限定的な分泌がみられることが示された。

以上の結果から、BP においては自己抗体によって細胞内外での Hsp90 の分布に異常をきたすとともに、炎症の場となる皮膚では Hsp90 の発現が上昇することが示唆された。したがって、Hsp90 は BP の病態に関わっている可能性があり、Hsp90 をターゲットとした新しい治療法の開発も期待される。

Tukaj S, et al: Aberrant expression and secretion of heat shock protein90 in patients with bullous pemphigoid. PLoS One 8: e70496, 2013

(慶應義塾大学 熊谷 宜子)